

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 12月 1日

事業所名 児童デイサービス ラ・シュシュ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	4	4	集団が苦手な児童に は個別に個室で対応 している。	限られたスペースを有効活用し安全で安心で きる場所を提供していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	3	5		規定に基づいた職員配置はしているが日によって重度の利用時が多い場合には 個々のニーズに対応できない場合があるため利用日の調整をしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	6	2	車椅子でも安心して過ごせ るよう事業所内は全てバ リアフリーで整えている。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画してい る	8			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	8			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	8		一年に一度法人の ホームページで公開 している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	7	1		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	7	1		できる範囲で勤務体制を整え職員の質の向上の ため研修に参加している。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	8			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用し ている	7	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	6	2		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	5	3	休日や長期休みなどの一日利用 の際には運動遊びを取り入れ体 力作りを図っている。	休日や祝日の利用の際は活動プログラムに行事を取り 入れ季節を体験できるようにしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサー ビス計画を作成している	7	1		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担につ いて確認している	8		その日の個別活動、 集団活動など支援の 内容と役割分担を確 認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	8			気になった点や状態に変化のあった場合に はその日のうちに問題を解決し不安なく事業 所を利用できるように環境を整えている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断して いる	8			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	8			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	2		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	2		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2		玄関に苦情BOXを設置し苦情があった場合には早めに対応し解決していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	2		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	7		コロナ禍が収束したら交流会を実施する予定でいる。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4	現在協議会は休止しているが実施されれば毎回参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			連絡帳を通して連絡を取り合ったり送迎時に家族とその日の状態を細かく伝えている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	4		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	2		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	6		コロナ禍により開催できなかった。次年度は保護者会を開催したいと考えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		苦情があった場合には早めに対応し解決している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		月に一度おたよりを発行し活動概要を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	8			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4		地域との交流を深めるための行事計画を立てるがコロナ禍により実現できていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		マニュアルに関しては法人全体で作成しており各事業所に配置している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		月一度避難訓練を実施し非常災害に備えている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		虐待防止の研修会には毎回参加し研修内容を支援に反映させている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8			どのような場合であっても身体拘束は行わないため記載しない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		法人全体の事例集があるためそれをもとに事業所で共有している。	